



平成 29 年 10 月 23 日
国立大学法人帯広畜産大学

公開シンポジウム 「十勝の自然と人の暮らし-自然への影響と共存に向けて」 の開催について

このたび、帯広畜産大学農業共生圏高度専門人材育成事業の一環として、「野生生物と社会」学会と本学の共催による公開シンポジウム「十勝の自然と人の暮らし-自然への影響と共存に向けて」を下記のとおり開催いたします。

人の活動は様々な面で野生生物に影響を与えており、種の減少・絶滅の主な要因となっています。一方で、野生生物による農作物への食害等、野生生物が人の活動に与える影響も少なくありません。特に十勝地方は農業を基幹産業としており、人と野生生物がどのように関わっていくべきかが大きな課題となっています。本シンポジウムでは、野生生物の「保護」と「管理」の2つの視点から、人と野生生物の共存について、講演及びパネルディスカッションを行い、参加者の皆様とともに学びあう機会としたいと考えております。

つきましては、本シンポジウムへのご参加及び関係各所への周知につきまして、ご協力くださいますようお願いいたします。

記

- 日 時 : 平成29年11月4日(土) 15:00~18:00
会 場 : 帯広畜産大学 講堂
参加方法 : 事前申し込みは不要です。当日会場までお越しください。
お問合せ : 第23回「野生生物と社会」学会大会実行委員会
帯広畜産大学 環境農学研究部門 特任講師 浅利裕伸
E-mail : asari@obihiro.ac.jp

第23回「野生生物と社会」学会大会 公開シンポジウム

十勝の自然と人の暮らし

一自然への影響とリスに注意

共存に向けて

開催日

2017年11月4日(土)

15:00～18:00(14:30開場)

帯広畜産大学 講堂 (帯広市稲田町西2線11番地)

入場無料

申込不要

人の活動はさまざまな面で野生生物に影響を与えており、種の減少・絶滅の主な要因となっています。一方、クマやシカなど大型動物との軋轢も全国で発生しており、野生生物の「保全」と「管理」の両立は将来の野生生物との共存にあたって重要な問題です。

北海道十勝地方は、面積約1万平方キロという都府県レベルの広さに約35万人が生活し、年間約400万人分の食料を生産する日本の食料庫となっています。一方で、市街地や農耕地にはヒグマやシカなどの大型獣が出没し、タンチョウやオジロワシなどの希少種も生息しています。

農業王国とかちに暮らすわれわれが、今後これらの生き物とどのように関わっていくべきでしょうか？



主催: 第23回「野生生物と社会」学会大会実行委員会、共催: 帯広畜産大学「農業共生圏高度専門家育成事業」

<お問い合わせ先> 第23回「野生生物と社会」学会大会実行委員会 浅利裕伸(事務局長、帯広畜産大学)
E-mail: asari@obihiro.ac.jp

プログラム

15:00 ~ 15:10 **開会の挨拶・趣旨説明**

柳川 久（大会長、帯広畜産大学・副学長）

15:10 ~ 15:50 **基調講演 1**

「十勝の景観と野生動植物保護—それを守るヨーロッパの農業環境スチュワードシップ制度」

紺野康夫（元帯広畜産大学）

15:50 ~ 16:30 **基調講演 2**

「野生動物との共存と市民協働」

和田哲也（アークコーポレーション株式会社）

16:30 ~ 16:50 **学生講演**

「街の生き物研究から考える野生動物との付き合い方」

内田健太（北海道大学 環境科学院 博士課程・日本学術振興会 特別研究員）

16:50 ~ 17:00 **休憩**

17:00 ~ 18:00 **パネルディスカッション（座長：柳川 久）**

パネリスト

紺野康夫（元帯広畜産大学）

澤田誠吾（島根県中山間地域研究センター）

水田 拓（環境省奄美自然保護官事務所）

和田哲也（アークコーポレーション株式会社）

宮崎広幸（十勝総合振興局）

日月 伸（帯広の森 はぐくむ）